

令和4年度全国学力・学習状況調査における

北九州市立

南曾根

中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、理科)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

(1) 教科に関する調査(国語、数学、理科)

教科に関する調査(国語、数学、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

(2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査

○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

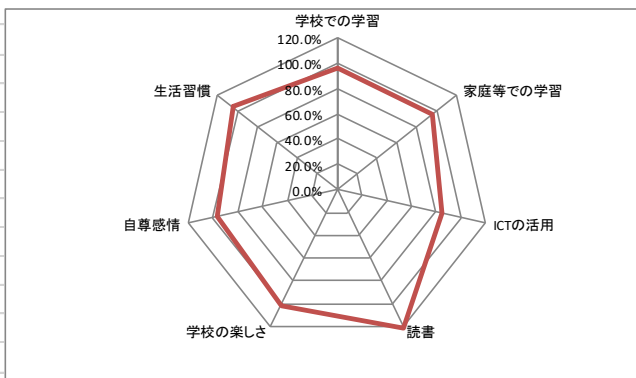
(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、理科)の結果

本年度の結果	国語		数学		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	9.3	66	6.6	47	9.8	47
全国	9.7	69	7.2	51	10.4	49

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 正答数は、中位～上位に多く分布している。 分類別では、知識及び技能、思考力・判断力・表現力ともに全国平均を上回っている。 区分別では、情報の扱い方に関する事項と書くことが大きく全校平均を上回っている。 	全国平均正答率との比較 上回っている
	よくできた問題	「話の進め方のよさを具体的に説明したものとして適切なものを選択する」など論理の展開を注意して書く問題の正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「スピーチのどの部分をどのように工夫して話すのかと、そのように話す意図を書く」など自分の考えがわかりやすく伝わるように表現を工夫して話すという問題の正答率が低い。	
数学	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 正答数は、中位に多く分布し、上位よりも下位の方が多く分布している。 分類別では、学習指導要領の領域で「地球」を柱とする領域以外は全国平均を下回っている。 区分別では、図形と関数に課題がある。 	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	「自然数を素数の積で表す」や「簡単な連立二元一次方程式を解くことができる」などの数と式では正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができる」などの数学の思考・判断・表現に関する問題の正答率が低い。	
理科	全体的な傾向や特徴など	<ul style="list-style-type: none"> 正答数は、中位に多く分布し、上位よりも下位の方が多く分布している。 分類別では、学習指導要領の領域で「地球」を柱とする領域以外は全国平均を上回っている。 区分別では、知識・技能、思考力・判断力・表現力で全国平均と比べ同程度である。 	全国平均正答率との比較 同程度である
	よくできた問題	「モデルを使った実験において、変える条件と変えない条件を制御した実験を計画できるかどうか」などの粒子を柱とする領域では正答率が高い。	
	努力が必要な問題	「継続的に記録した空の様子を撮影した画像と百葉箱の観測データを天気図の関連付けて、天気の変化を分析して解釈できるかどうか」などの地球を柱とする領域では正答率が低い。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析

- ・自分で計画を立てて勉強している割合は全国平均を上回っているが、学校の授業以外の学習時間は普段、土日共に全国平均を下回っていた。
- ・読書週間や読書の日の取組により1日当たりの読書時間は全国平均を上回り、読書が好きな生徒の数値も全国平均を大きく上回った。
- ・学校に行くのが楽しい生徒の割合は、全国平均を上回った。コロナ禍で学校行事が内容の変更を余儀なくされるが、中止ではなく、できることを生徒と共に考えていきたい。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組

- ・南中スタンダード(めあて→個人思考→集団思考→まとめ・振り返り)での授業改善を継続する。
- ・各教科でタブレットを活用した授業実践を積み重ね、生徒にとって必要な思考ツールとなるように工夫する。
- ・読書に関する取組や図書館職員との連携で、読書に親しむイベントを企画する。

② 家庭生活習慣等に関する取組

- ・南中ノートや南中タイムを活用し、授業時間以外の学習時間の増加、定着を図る。
- ・コロナ禍ではあるが、活動内容を吟味し、感染の拡大を防止しながら学校行事を行い、心豊かな生徒を醸成する。
- ・定期的な学校だよりの発行により、学校の取組を学校ホームページで保護者・地域へ発信する。